

## 8. 2024 年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

独立行政法人国立病院機構渋川医療センター  
院長、てんかんセンター長 高橋 章夫

### 1. 概要と診療体制、院内での活動

今年度当初はてんかんセンターの主たる診療科である脳神経外科の常勤医が一時的に1人減となったため、モニタリングやてんかん外科手術件数などが減少したが、10月よりてんかん専門医、てんかん専門医指導医の資格を有し、運動異常症に対する定位脳手術も専門とする宮城島孝昭医師が群馬大学より脳神経外科医長、てんかんセンターの外科部門を担うニューロモデュレーションセンター長として赴任した。次年度からはDBS、SEEG等のてんかん外科の新しい技術の導入が期待される。井田久仁子副てんかんセンター長は、小児科、重心医師として移行期医療に注力、重度のてんかん性脳症患者の重心病棟への短期、長期入所を推進した。3人のてんかん診療支援コーディネーター（山浦美和子MSW、狩野末樹言語聴覚士、岩丸樹看護師）が院内外で広く活動を展開し、多職種連携や他施設連携をさらに推し進め、病院をあげててんかん診療に取り組む姿勢をアピールした。

MOSESについては新たに2名のてんかん病棟看護師がトレーナーとなり、2025年2月3～7日に3名の患者が参加して行った。4月よりてんかん専門医を目指す2人の脳神経内科医師が非常勤医師として勤務、外来診療と研修を開始（群馬大学脳神経内科 道崎瞳医師、太田記念病院神経内科 黒澤亮医師）、群馬県初となる脳神経内科のてんかん専門医取得を目指している。

### 2. 市民啓発などの対外事業

昨年度末に施行したパープルデーイベントでは、渋川市の全面的な協力を得て、伊香保温泉石段と渋川スカイランドパークの観覧車のパープルライトアップ、市民ホールでのパネル展示、動画放映、職員の缶バッジ着用を行ったが、今年度も同様の活動が予定されている（図1、写真は昨年度のもの）。今年度は下記の講演及び患者談話会を行った。

#### 1) 2024年8月24日「てんかんを学ぼう—PART2—」

演 題：「てんかんと向き合い方」

講 師：国立精神・神経医療研究センター てんかん診療部 谷口 豪 先生

参 加 者：現地参加18名、Web参加35名 計53名

#### 2) 2025年2月15日「てんかんを学ぼう—PART3—」

演 題：「てんかん発作の観察対応、日常生活の注意点」

講 師：国立精神・神経医療研究センター 看護師長 原 稔枝 先生

参 加 者：現地参加13名、Web参加17名 計30名

これらのセミナー終了後、てんかん患者及び家族が音楽を聴き、お茶を飲みながら自由に医師やコーディネーターをファシリテーターとして語り合う形式の談話会「えびカフェ」を行い、それぞれ、てんかん患者5名、家族9名、合計14名（第3回）、てんかん患者4名、家族9名、合計13名（第4回）の参加があった。「えびカフェ」については今回で4回目の開催であるが、非常に好評であり、毎回参加してくれる方もいて、当院のユニークなイベントとして定着しつつある（図2）。

医療機関向けには、県内のてんかん診療を行っている130医療機関（訪問実績及び第9次保健医療計画より同意を得たてんかん連携候補医療機関）にアンケートを行い、てんかん診療の実態や当センターに対する要望を記載してもらい、現在集計、解析を行っている。県内の教育機関については、9月5日に井田副センター長が桐生特別支援学校において教員向け講習会として「てんかんへの対応について」を行った。

